

難波田城だより

—難波田城公園・難波田城資料館ニュース—

平成 24 年 9 月 1 日発行
編集・発行/富士見市立難波田城資料館
第 53 号
NEWS from NANBATAJO

にわたりみなる平井城址へ

市民学芸員 世羅陽一郎



平井城の空堀と復元された木橋

群馬県の藤岡インターを降りて 15 分程の所に平井城址公園があり、土塁や曲輪が一部復元されています。昔のままの痕跡は乏しいものの「風と鮎川の流れば変らぬ」の想いで、ここを二度ほど訪ねています。今回は、本城の背後にある詰め城「平井金山城址」も歩いてきました。

平井城は足利学校を再興させた山内上杉憲実が永享 10 年（1438）に築城したとされ、関東管領を世襲した山内上杉家の本拠でした。最盛期には鎌倉のような賑わいがあったと言われます。天文 21 年（1552）に山内上杉氏が平井城を離れるまで 114 年間の夢の跡は、北条氏康軍によって城と城下が破壊され、廃城となります。後北条の台頭により山内上杉氏が関東管領の実権を失ってゆく幾多の戦いを想像すると、ちょっと切ない思いがします。戦いには難波田氏も関わっていますが…

さて、現在の城址は、北に三の丸、西に二の丸、本丸跡、空堀があり、一部道路になっていますが案内板の古地図で想像できます。東側は崖で鮎川が流れ、自然要塞の体を保っています。この城館は丘陵の末端部にあり、各曲輪を囲んで、堀と土塁で地割されています。

平井城址をそこそこに、背後の山中にそびえる平井金山城址へ向かいました。車で 7 分程の所に登山口と駐車場があります。ふもとから 160m ほどを 40 分かけて登れば、本丸跡・井戸曲輪・櫓門跡・大手口・



平井金山城址の案内図に一部加筆

物見台跡等を探索できます。狭い尾根に楼閣をつくり、堀切・虎口をいくつも配備した堅固な構造で、実際に戦闘のあったこの城は、平井城（本城）より遺構が多いと思います。この城址の背後に後北条軍の砦跡が 2 ヶ所あります。

最後の城主、山内上杉憲政は、あまり評判の良くない人物で、離反者が多くでたと聞きます。晩年は、上杉謙信の跡継ぎを争う御館の乱（1578）に巻き込まれて死亡することになります。

長尾景虎（上杉謙信）は、憲政から関東管領を継がなければ、無駄足を運ぶことなく天下道へと歩めたのではないのでしょうか。統率力と能力・気力・行動力のひとと軍団でしたから残念な思いがします。

どうぞ、皆様も藤岡市へ行く機会がありましたら、少し足を伸ばして、平井城址～平井金山城址などの古き痕跡を尋ねてみてはいかがでしょうか。今回の城址めぐりで人と会うことはなく、1mほどの蛇に遭遇しました。山城へ出かけるのは、夏場は止しましょう。

人と物と思いに、費やした血と汗と涙は、にわたりみとなり鮎川に流れくだりました。

やまかがし 公方の果てか 腰曲輪

安愚楽

*にわたりみ:雨の時だけ流れる川。行方知らずの枕詞

こんなお宝がありました 資料館編

「田打車」(たうちぐるま)

稲作と言えば、「田起こし」や「田植え」、「除草」、「稲刈り」、等の作業があります。「除草」は稲の成長を妨げる雑草をとりながら土を掘り、土中の空気を循環させて稲の成長を促進させる大切な仕事です。「田植え」の後に何度も行わなければならない大変な労働です。

「田打車」は別名を「タコロガシ」、「回転除草機」などと言い、その「除草」の労働を楽にするために明治時代に普及しました。

「田打車」は二回目（二番草）あたりの除草で特に使用される農具でした。これを使って稲の列と列の間を転がしながら進んでいくことで、大きな雑草を取り除き、土を浅く掘って耕すことが出来ます。小さな雑草を取ることは出来ず、使用していて水田に足を取られるような不便さもあり、除草剤や機械化が進んだことによって姿を消していきました。それでも体に掛かる負担を軽減し、作業の効率を改善してくれる画期的な農具でした。（北野圭祐）



田打車



公園内の田んぼで草取りをする
田んぼ体験隊のファミリー

おもしろ・なつかし体験③7

わいばし鉄砲(難波田城公園まつり編)

このコーナーは、難波田城公園での体験事業やイベントの紹介・報告・参加者の感想などを取り上げます。

今年も6月の第一日曜日は難波田城公園まつりで大変盛り上がりました。その中で市民学芸員が担当した昔遊びコーナーのひとつ、割りばし鉄砲しゃてきの射的を紹介させていただきます。

割りばし鉄砲は子供の頃に作って遊んだ記憶がある方が多いと思います。私もよく遊びました。今回は割りばし2膳と輪ゴムで作るスタンダードな割りばし鉄砲を自分で組み立てます(無料)。

それから1回30円で射的にエントリー、持ち玉は輪ゴム5発で1.5メートル先の的

を3つ倒すと豪華商品をゲットできるくじを引くことが出来ます。

お祭のメインイベントである火縄銃の演武に負けない緊張感で子供たちが割りばし鉄砲の引き金をひいていました。また来年もやりますので、今から射的の腕をみがいておいて下さい。(市民学芸員 酒井正俊)



人の創った道具★人の使った道具

花嫁衣装と嫁入り支度

本年 11 月 24 日(土)、富士見市市制 40 周年記念事業「古民家結婚式～ちょっと昔の“ご祝儀”を再現～」を行います。昭和 40 年(1965)頃まで、この辺りで一般的だった自宅での婚礼を再現します。これに関連し、穀蔵展示「昔の結婚式」(25 年 8 月上旬まで開催中)では昭和初期～40 年頃までの“ご祝儀”(結婚式、婚礼の呼び名)の資料を展示しています。その一部を紹介します。

花嫁衣装は“白→黒→白”と変わった

花嫁衣装の色は「洋装なら純白のドレス、和装なら白無垢(白打掛)」と“白”を連想する方が多い



写真 1 千代田文様の花嫁衣装
昭和 29 年、市内の婚礼で着用

農家が多い富士見市域では、留袖が一般的で、振袖は珍しいものでした。

白無垢は、室町時代に武家の花嫁衣装として定められ、江戸時代に庶民にも普及しました。

黒紋付は、明治政府が黒を男性の正装の色としたのに準じ、花嫁衣装として



このコーナーでは、当館所蔵の資料を紹介します。今では使われなくなった道具からわたしたちの身近な歴史をひもといてみたいと思います。

も着用されるようになったようです。

つまり、花嫁衣装の色の歴史は、白→黒→白と移り変わってきたのです。



写真 3 出祝儀の花婿・花嫁(個人蔵)
昭和 30 年、市内で撮影。当地では、この頃から白地の花嫁衣装が流行し始めた。

嫁入り支度と婦人会の貸衣装

花嫁が用意する嫁入り支度(嫁入り道具)は、時代や家格によって異なりますが、桐箆笥、下駄箱、鏡台、針箱、裁ち板、張り板、タライ、長持、布団、蚊帳などでした。箆笥の引き出しにはよそゆきの着物などを入れました。昭和 5 年(1930)頃からは自転車、30 年(1955)頃からは洋服箆笥やベビー箆笥、洗濯機などの家電が加わりました。

これらは婚礼当日に婿宅の座敷に並べ、親せきや近所の人に披露したので、嫁の実家では無理をして数々の調度品を用意することもありました。

第二次大戦後、農村にも派手な生活が見られるようになった 30 年頃から、生活の簡素化をめざす新生活運動が進められました。その一環で、36 年(1961)、南畑婦人会では貸花嫁衣装を実現させます。嫁入り支度や花嫁衣装の質が人間の評価につながることに矛盾を感じた会員を中心に検討し、花嫁用に振袖 2 組・親せき用に江戸褌 1 組を用意しました。貸衣装屋よりも安く利用できたので、喜ばれました。

写真 2 出祝儀の花嫁と両仲人(個人蔵)

昭和 35 年頃、市内で撮影。この花嫁は自ら仕立てた黒地の江戸褌を着た。出祝儀とは、婚礼当日、嫁入り前に嫁の実家で行われる祝宴。仲人は婿方・嫁方双方に 1 組ずつ立てるものだった。

秋のイベント予定

●企画展情報

平成 24 年秋季企画展

「写真で見る 40 年前の富士見市」

市制 40 周年を記念し、市内の建物や街並み、風景などのなつかしい写真を展示します。

会 期／10 月 20 日（土）～12 月 28 日（金）

会 場／難波田城資料館特別展示室

穀蔵展示「昔の結婚式」

富士見で行われた自宅での結婚式の写真や、昭和初期から 30 年代頃の花嫁衣裳などを展示します。

会 期／8 月 3 日から約 1 年間

会 場／穀蔵展示室

●市制 40 周年記念事業

「古民家結婚式」

「ちょっと昔の「ご祝儀」を再現」

昭和 40 年頃の結婚式を再現します。

と き／11 月 24 日（土）

午前 10 時～午後 3 時

●扇だこづくり講習会

と き／9 月 29 日（土）～30 日（日）の全 2 日

場 所／難波田城資料館講座室

参加費／1,000 円

定 員／10 名（申込順）

指 導／富士見市扇だこ保存会

申込み／9 月 1 日（土）午前 9 時から直接または電話で

●思い出の布で小物入れづくり

用意した布を使い、縫い方を教わります。

と き／10 月 3 日（水）午前 10 時～午後 3 時

場 所／難波田城資料館講座室

作 品／猫の顔の形をした小物入れ

参加費／300 円 定 員／15 名（申込順）

指 導／美楽の会 申込み／直接または電話で

●ふるさと体験「お月見だんごづくり」

と き／10 月 13 日（土）午前 10 時～正午

場 所／旧金子家住宅 参加費／1 組 500 円

対 象／子供～大人 定員／10 組（申込順）

●秋の古民家コンサート

琵琶の響きのもと、平家の栄枯盛衰を語ります。

と き／10 月 28 日（日）午後 1 時 30 分～2 時

場 所／旧大澤家住宅

定 員／100 人程度（無料、当日先着順）

●さきおり教室

布を裂いて織る「さきおり」で、布を作ります。

と き／第 1 日：11 月 3 日（土）、第 2 日：同 4（日）・7（水）・9（金）・10（土）のうちいずれかで 2 時間程度の個別学習、第 3 日：同 11 日（日）

場 所／旧大澤家住宅 材料費／800 円

定 員／8 人（初参加優先、申込順）

指 導／ふじみ手織の会

申込み／10 月 3 日（水）～25 日（木）

※ 各イベントの詳細は、広報ふじみやポスター、チラシ、公式サイトなどをご覧ください。

他にも、ふるさと探訪（10 月 7 日）、拓本教室（10 月 21 日）、さつまいも掘り（10 月 28 日）、古文書教室（12 月 1・8・15 日）などのイベントがあります。

●ちよっ蔵市

（難波田城公園活用推進協議会主催）

9 月 30 日（日） おはぎ

10 月 28 日（日） ふかしいも

11 月 25 日（日） 手打ちうどん

※時間は午前 11 時から。売り切れ次第終了です。

＜閉園時間について＞

10 月から 3 月の間、公園の閉園時間は午後 5 時です。資料館と古民家の閉館も午後 5 時です。



編集・発行／富士見市立難波田城資料館

〒354-0004 埼玉県富士見市下南畑 568-1 Tel. 049-253-4664 Fax. 049-253-4665

富士見市役所公式ホームページ <http://www.city.fujimi.saitama.jp>

◆資料館休館日／月曜日（祝日を除く）、祝日の翌日（土曜日・日曜日を除く）、年末年始 開館時間／午前 9 時～午後 5 時

◇公園休園日／なし 開園時間／午前 9 時～午後 6 時（4 月～9 月） 午前 9 時～午後 5 時（10 月～3 月）